

C-44 衣服の動作適合性に関する研究(第2報)

— スラックス上部の構造について —

お茶の水セ大家政　〇西尾榮子　猪又美栄子

目的：既製服として多くの人に適合し，かつ動的機能をみたすスラックスの原型を設定することを目的とし，スラックスの上部形態をとり上げ，官能検査法により着用実験を行った。

方法：被検者は20～23歳女子学生6名である。実験の要因と水準は，「後股上線の傾斜度」について「5度」・「10度」・「15度」・「20度」の4水準，「後股幅」について「腰囲/8」・「腰囲/8+2cm」の2水準，また着用実験における実験動作は「最大前屈」・「普通歩行」・「大股歩行」・「右股関節膝関節90度屈曲」・「正橋座位」の5動作である。実験項目は次のようである。すなわち，正常姿勢への適合性として，外観については「前面の形」・「後面の形」・「側面の形」の3項目，寸法については「股上」・「腰囲」・「大腿囲」・「膝囲」の4項目である。また，動的体型への適合性として，寸法については「股上」・「腰囲」・「大腿囲」・「膝囲」の4項目である。実験服ごとに各項目について5段階で判定し，累積法で解析を行った。

結果：1) 日常着として，正常姿勢に対し外観が優れ，かつ動的機能をみたすスラックス上部形態の設定条件については，「後股上線の傾斜度」は「10度」，「後股幅」は「腰囲/8+2cm」の組合せが適当である。

2) 動的適合性が強く要求される作業着では，「後股上線の傾斜度」は「15～20度」，「後股幅」は「腰囲/8」の組合せが動的機能性のうえから適当である。